

はじめよう

学校支援ボランティア



このハンドブックは、子どもたちのために何かをしたいと考えている地域の方、学校支援ボランティアを依頼したい先生方、そして、地域の方と先生方とをつなぐコーディネーターのための手引きです。

下仁田町教育委員会
下仁田小学校・下仁田中学校

目 次

下仁田町の子どもたちを育むために	1
学校支援ボランティアとして（地域のみなさんへ）	2～9
ボランティアとは何か、ボランティア活動の4原則、ボランティア活動とは	2
学校支援ボランティアとは	3
学校支援ボランティアの4つのタイプ①	4
学校支援ボランティアの4つのタイプ②	5
環境支援 = 施設メンテナー型、環境サポート型	
学習支援 = ゲストティーチャー型、学習アシスタント型	
学校支援ボランティアのすすめ	6
学校へ行ってみよう	7
実践前の打合せは、活動時に気をつけること、約束ごと	8
活動終了後は	9
活動の振り返り、ボランティアの輪を広げよう、学校とよい関係づくりから始めましょう	
学校支援ボランティアとともに（先生方へのメッセージ）	10～15
子どもたちにとって、先生たちにとって、こんなことを考えたことはありませんか	10
学校支援ボランティアの迎え入れ体制（事前の配慮事項5か条）	11
学校支援ボランティアの迎え入れ体制（先生のための5か条）	12
学校支援ボランティアの迎え入れ体制（学校内の受け入れ体制10か所）	13
学校支援ボランティアの迎え入れ体制（ボランティア活動が終わったら）	14
学校とボランティアをつなぐために（体系図）	15
学校とボランティアをつなぐために（コーディネーターへのメッセージ）	16～26
学校支援ボランティアのコーディネート・しくみ	16
学校支援ボランティアのメリット	17
地域コーディネーターって何をするの	18
地域コーディネーターの心得 5か条	19
学校支援ボランティアと協働する4つのアイディア	20
学校支援ボランティアをめぐる10の課題	21 22
学校が求める支援内容	23 24
その他	25 26
法的な位置づけ、学校支援ボランティアコーディネーターの配置	
「コーディネーター」から「コーディネーターズ」へ、配布資料（小・中学校）	

下仁田町の子どもたちを育むために

はじめに

子どもたちが将来の夢や希望に向かって生き生きと成長していくためには、「高い志や意欲を持ち、自らが持っている知識で考え、他者と協働しながら、課題を解決し、その場ごとに対応し、新しい時代を主体的に切り拓く力を身につけることが必要」です。

そのためには、「確かな学力」と「豊かな人間性」と「様々な体験活動」の中で、子どもたちをたくましく育成していくことが求められています。

下仁田町では、「町の未来を担う子どもたちを育成していくために、学校、家庭（保護者）、地域が連携・協力することにより、信頼関係を深め、地域の活性化に向けた取り組み」を推進してまいります。

そこで、町教育委員会・下仁田小学校・下仁田中学校では、学校活動支援の充実を図り、地域・家庭（保護者）は学校を支え、学校は地域と家庭（保護者）に支えられ、家庭（保護者）は学校・地域を信頼し、そこに三位一体の支援が完成します。

子どもたちのためにも、学校・地域・家庭（保護者）が向き合い、方向性を一つにし、推進していくために、本手引きを作成しました。

一助としてご活用いただきますようお願ひいたします。

下仁田町教育委員会・下仁田小学校・下仁田中学校

学校支援ボランティアとして (地域のみなさんへ No.1)

1 ボランティアとは何か

ボランティア活動とは、自発的意志に基づく、公共目的のために行われる無償の活動のことをいいます。こうした活動を進んで行う人のことをボランティアと呼んでいます。

2 ボランティア活動の4原則

生涯学習審議会答申（平成4年）には、ボランティア活動について、次の4原則があると述べられています。

① 自発性の原則

公共機関や他人から強制されるのではなく、自発的意志に基づいて行われるものであるという原則

② 公共性の原則

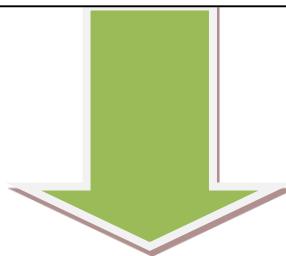
活動が特定の人たちの単なる私益につながるものではなく、社会や公共の福祉に役立つべきであるという原則

③ 無償性の原則

活動の見返りとして金銭的報酬など、物的利息を期待すべきではないという原則

④ 先駆性の原則

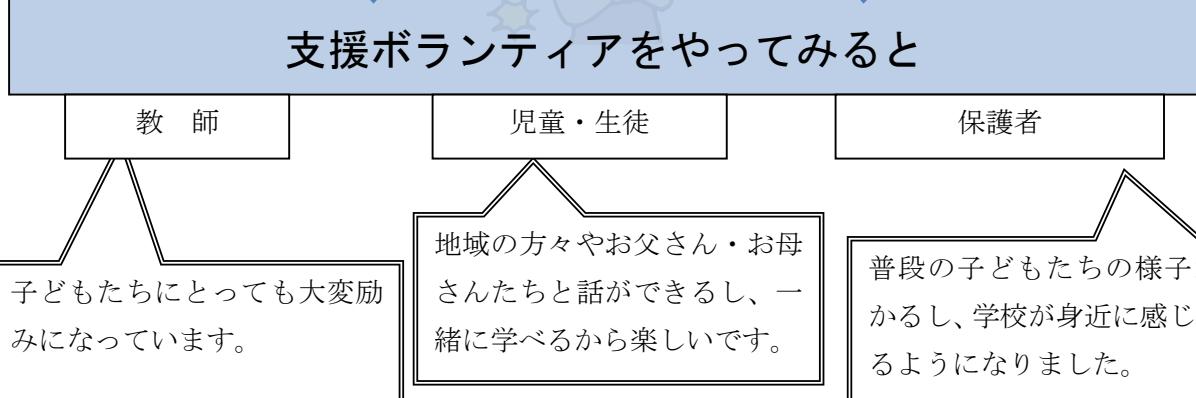
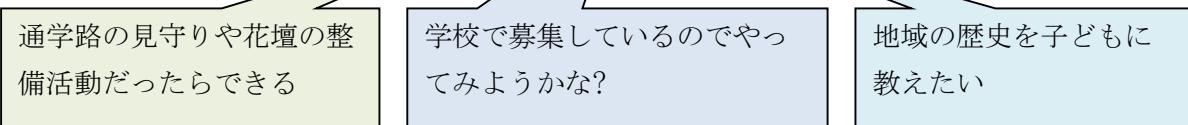
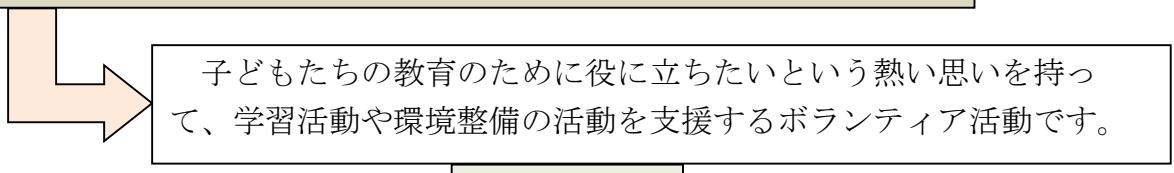
活動が画一的に取り組まれているだけではなく、社会の発展や開発をリードする先駆的な活動であるという原則



ボランティア活動とは、「自ら進んで地域社会や公共の福祉のために、自己の利益を求めずに技術や労力、時間を提供する活動であり、ひいては社会の発展を促すこと」です。

学校支援ボランティアとして (地域のみなさんへ No.2)

3 学校支援ボランティアとは (学校支援隊や学校支援センター等)



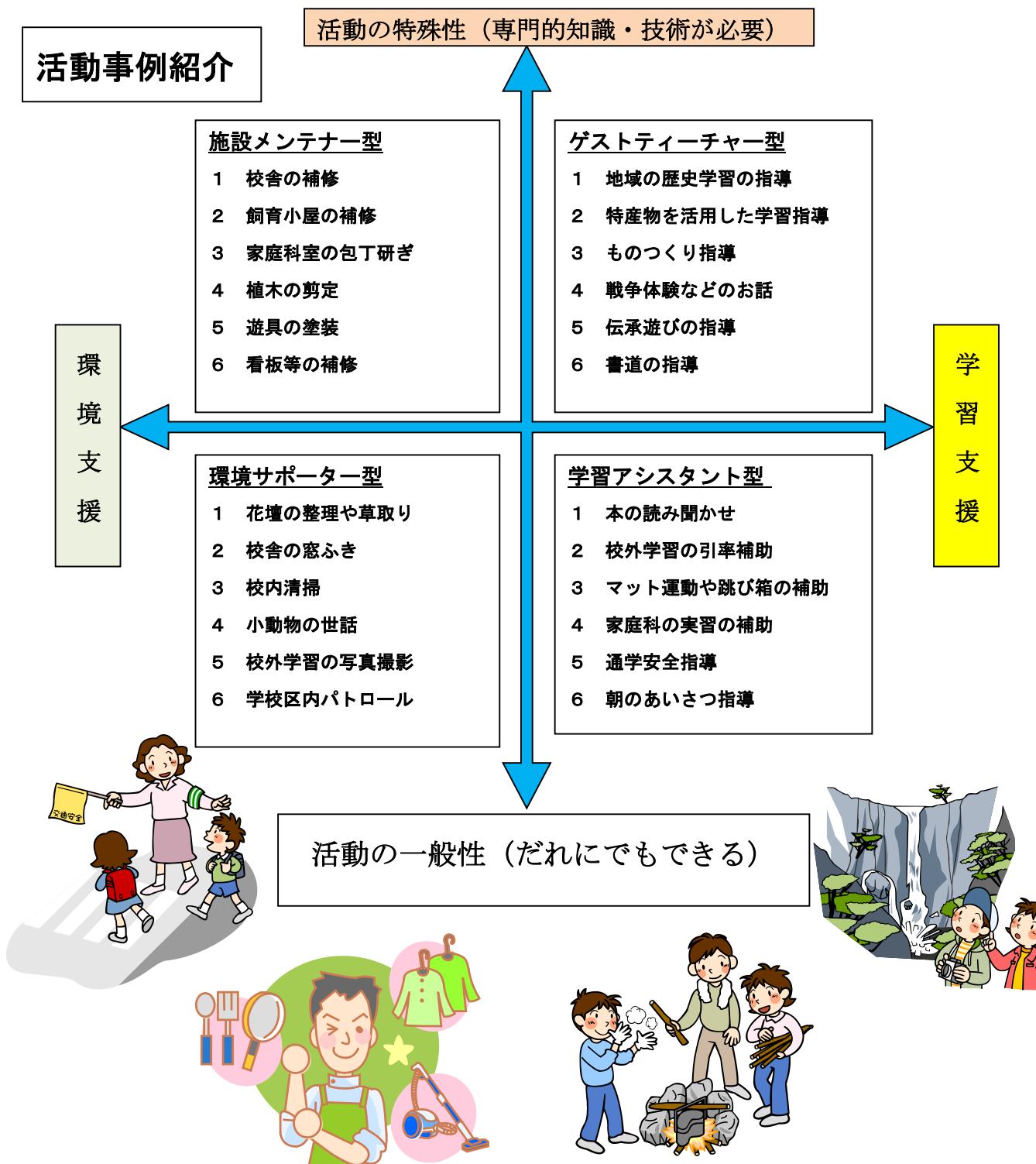
学校支援ボランティアを進めることによって、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりができます。また、地域の方々の知識や技術、経験を生かす場にもなり、活動を通して人のつながりも生まれ、地域の教育力も向上します。

学校支援ボランティアは、「できる人が、できるときに、できること」を自らの意思で主体的に行うことが基本です。

学校支援ボランティアとして (地域のみなさんへ No.3)

学校支援ボランティアの4つのタイプ①

学校支援ボランティアは、学習支援を目的とするものと環境支援を目的とするものに分けられます。また、活動に伴って技術や専門的知識を要するものとそうでないものにも分けられます。



学校支援ボランティアとして (地域のみなさんへ No.4)

学校支援ボランティアの4つのタイプ②



環境
支
援

施設メンテナー型

(専門的な知識や技術が必要です)

○専門性を発揮しながら、施設や設備の維持管理を支援します。

*校舎の補修、飼育小屋づくり、壁紙の張り替え、パソコン管理、ホームページの作成・更新、植木の剪定など

環境サポーター型

(専門的な知識や技術は必要なく誰でもできます)

○安全で快適な学習環境を整えます。

*校区内のパトロール、図書室の整理、花壇の整備、校舎の窓ふき、教材・教具の整理など

学
習
支
援

ゲストティーチャー型

(専門的な知識や技術が必要です)

○子どもたちの学習の理解を深めるために、直接、学習指導をします。

*ものづくり指導、地域の歴史学習の指導、特産品を活用した社会科学習の指導、自然に関する理科学習の指導、短歌や俳句などの指導、戦争体験などのお話、茶道や華道、書道などの指導、農作物や植物栽培などの指導、英会話指導、伝統芸能の指導、パソコンの指導、部活動の指導など

学習アシスタント型

(専門的な知識や技術は必要なく誰でもできます)

○子どもたちの学習活動を効率よく進めるために、教師の指導を手助けします。

*校外学習の引率補助、家庭科の実習の補助、放課後の補充学習の補助、本の読みきかせ、マット運動や跳び箱などの指導補助、小学校低学年の給食運搬や配膳の補助、朝のあいさつ指導、特別な支援を要する子どもの指導補助など

学校支援ボランティアとして (地域のみなさんへ No.5)

4 学校支援ボランティアのすすめ

学校は、授業の充実やより高い教育効果を求め、学校支援ボランティアを探しています。また、地域住民も、子どもたちのために何かをしようという思いを持つ人が増えています。では、学校では、どんなボランティアを探しているのでしょうか。学校だよりなどで情報を集めましょう。また、直接、学校へ問い合わせをするなどしてみましょう。また教育委員会でも問い合わせられます。

下仁田小学校

電話 82-2077

下仁田教育委員会

電話 82-2115

下仁田中学校

電話 82-2049



ドリル学習の採点を手伝おうかな？

野菜の作り方は教えることができるかな？

通学路のパトロールだったらできる？

地域の歴史を子どもに教えたい？

花壇の整備はできそうだ？

学校で募集をしているのでやってみようかな？

本の読み聞かせはたいせつだな？

パソコンの技術を生かしてみたい？

学校支援ボランティアとして (地域のみなさんへ No.6)

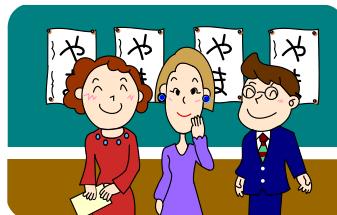
5 学校へ行ってみよう

小学校の一日

時刻	日課
~ 8:20	児童登校 朝読書
8:25	朝の会、読み聞かせ
8:35	1校時
9:20	
(5分)	休み時間
9:25	2校時
10:10	
(20分)	休み時間
10:45	3校時
11:30	
(5分)	休み時間
11:35	4校時
12:20	
12:20	給食
13:12	
13:12	清掃
13:30	
13:30	昼休み
13:50	
(5分)	休み時間
13:55	5校時
14:40	
(5分)	休み時間
14:45	6校時
15:30	
15:30	帰りの会
15:45	
16:00	下校（冬）
16:20	下校（夏）

学校の一日の流れです。
参考にご覧ください。

学校への
問い合わせ・ご相談は
教頭先生や教務主任の先
生、「学校と地域を結ぶコ
ーディネート担当」の先生
方は比較的連絡が取りや
すい学校の窓口といえま
す。



中学校の一日

時刻	日課
~ 8:20	生徒登校
8:25	朝礼、朝読書
8:35	短学活
8:45	1校時
9:35	
(10)	休み時間
9:45	2校時
10:35	
(10)	休み時間
10:45	3校時
11:35	
(10)	休み時間
11:45	4校時
12:35	
(40)	給食
(25)	休み時間
13:40	5校時
14:30	
(10)	休み時間
14:40	6校時
15:30	
(20)	清掃
15:50	短学活
16:00	
16:00	部活動
16:05	下校（冬）
18:00	下校（夏）

学校支援ボランティアとして (地域のみなさんへ No.7)

(1) 実践前の打合せは

学校支援ボランティアとして活動することが決まつたら、先生と十分な打合せをしましょう。

- ① 当日の学校についてからの動きと活動場所などを確認しましょう。
- ② 学校のねらいや子どもの様子について確認しましょう。
- ③ 活動内容については、自分の考えを提案しましょう。

(2) 活動時に気をつけることは

自信を持って大きな声で話をしましょう。

せっかく楽しい役立つお話でも聞こえなければ子どもたちは飽きてしまいます。自信を持って大きな声で話しましょう。



子どもをほめましょう。

ほめられるのが嫌な子はいません。ほんのささいなことでも、良いところを見つけてほめてあげましょう。

時にはきびしく、毅然とした態度も必要です。

友達の悪口を言ったり、けがや命にかかわる言動があつたりした時にはしっかり注意しましょう。

約束ごと

○活動の中で、知り得た子どもの秘密は守る。

○学校や先生の批判を子どもの前で、絶対に言わない。

○活動の中で、気付いたことは、遠慮せずに先生方に相談する。

○いかなる場合でも、体罰は行ってはいけない。

学校支援ボランティアとして (地域のみなさんへ No.8)

6 活動終了後は

(1) 活動の振り返り



活動終了後、先生方との話し合いを持ち、活動を振り返ってみることは、次回のボランティア活動を充実させ、よりよい活動にするために、ぜひ必要なことです。また、そのことは、自分の学習意欲をさらに高めることにつながっていきます。活動内容や感想など、自分なりに記録を残しておきましょう。

(2) ボランティアの輪を広げよう

ボランティア活動は、1人だけで行うよりも、やはり仲間とともに行う方がよいと言われます。なぜなら、活動の悩み事があった場合に、仲間に相談することができ、お互いアドバイスし合うなど、資質を高めることができるからです。また自分の用事がある時に、学校から依頼があっても、仲間で対応することができます。最初は、1人で始めても、活動を通して仲間をつくるように心がけることが大切です。楽しく、継続的なボランティア活動を行うためにも、ボランティアの輪を広げ、仲間同士が積極的に交流の機会を設けましょう。

(3) 学校とのよい関係づくりから始めましょう

子どもたちへの教育を学校だけに負わせるのではなく、学校と家庭・地域とが一体となって進めるものだという認識が定着してきました。しかしほんの少しボランティア活動を学校に申し出ても学校がなかなか動いてくれないという地域の不満を聞くことがあります。

確かに、学校には、未だに閉鎖的な姿勢が残っていることがあります。しかし、学校としても、よく知らない人に、子どもの教育や施設設備を任せることに不安を感じるはずです。また、何か協力したいと言われても、学校では何を依頼すればよいかわからないこともあります。

そこで、ボランティア希望者や地域の方々は、まず、どのような活動ができるかを具体的に学校に示すことです。例えば専門的な指導の場合には、活動案を作成したり、活動実績や資格・特技などを記録したものを学校に提出してみてはどうでしょう。

次に、いきなり学校に行くのではなくて、学校行事に参加するなど、日頃から学校に足を運ぶよう心がけてはどうでしょうか。授業公開日や運動会、学習発表会、地区別懇談会などに参加して、学校との関係を築くよう努めることが大切です。そして、公民館サークルなどの団体単位で学校支援を申し出るのも一つの方法です。学校にとっては、個人よりもサークルなどの団体の方が支援活動を依頼しやすいからです。

学校支援ボランティアとともに（先生方へのメッセージ No,1）

生涯学習社会における学校は、地域に支えられ、地域に貢献するという「地域に根ざした学校」として捉えることが大切です。

そのためには、学校をより開かれた存在にするとともに、地域住民による多様なボランティア活動の場として充実させていく必要があります。学校でボランティア活動は、学校にとって多くのよいことがあります、ボランティアや地域に人たちと協働することで、活気ある学校教育が可能になります。

地域に方々の協力があれば子どもたちのためにもっといろんなことができるのになあ。そんな先生方の思いを叶えてくれるもの一つに、学校支援ボランティアがあります。教育活動に幅が広がり大きな教育効果を生むことができるはずです。

1 子どもたちにとって・・・。

- 地域の人々と子どもたちの活動や交流をくり返すことで、子どもたちの社会性とコミュニケーション能力を育むことができます。
- 学校支援ボランティアの専門的な知識・体験により、子どもたちの学習意欲が喚起され、生きる力の育成につながります。
- ボランティアを通して多様な価値観や文化に触れることができます。
- ボランティアと接することで、子どもたちがボランティア活動に关心を持ち自分もボランティア活動に参加するきっかけとなります。

2 先生たちにとって・・・。

- 総合的な学習の時間など、地域学習の展開でアドバイスを受けたり、協力してもらえます。
- ボランティアの専門的な知識や技能を生かして、豊かな授業をつくることができます。
- 学校や子どもの実態を地域の人たちに理解してもらえ、学校をより開かれたものにします。その結果、学校に全てを任せるのでなく、地域の問題として共に考え、行動してもらえます。
- 先生とは異なる視点から新しい学習の課題を見つけたり、提案したりするなど、学校にとって新たな発想や工夫をもたらします。
- 学校支援ボランティア活動を通じて、学校への理解・共感を深めることができ、学校と地域の人々を強く結びつけます。

3 こんなことを考えたことはありませんか・・。

- 地域素材を使って、子どもたちの学習理解を深めたい。
- ドリルのマル付けを効果的に進めたい。
- 郊外学習で、引率を手伝ってくれるスタッフがほしい。
- 学校の図書室の運営をサポートしてもらい、夏休みに開室したい。
- 学習に遅れのある子や障害のある子のそばにいて援助してもらえる人がいたら、どんなにいいか。



学校支援ボランティアとともに（先生方へのメッセージ No.2）

4 学校支援ボランティアの迎え入れ体制

事前の配慮事項 5 か条



第1条 ボランティアの気持ちを大切にしましょう

ボランティアの考えを尊重し、「思い」や「やる気」を十分に引き出しましょう。例えば、一緒に活動案を作るなどすれば、双方の思いが生かされた活動につながっていきます。

第2条 連絡を密にしましょう

初めて学校に来てボランティア活動する人たちは、不安でいっぱいです。あらかじめ、準備物や当日の役割分担などを、十分打ち合わせましょう。

第3条 ボランティアの居場所を用意しましょう

活動の準備や着替えのできる「ボランティアルーム」のような場所があれば望ましいのですが、職員室などの一角にソファーを置くだけでもよいでしょう

第4条 ボランティアを全教職員で気持ちよく迎えましょう

気軽にあいさつを交わし、全教職員で気持ちよく応対をしましょう。そのためにも、朝の打ち合わせでボランティアの来校を伝えるなど教職員間の共通理解を図ることが大切です。

第5条 子どもたちにも説明しておきましょう

ボランティアの方が何のために来校しているのか、事前に説明しておくことが大切です。学校生活が、地域の方々に支えられていることを理解できるような事前指導を心がけましょう。



学校支援ボランティアとともに（先生方へのメッセージ No.3）

5 学校支援ボランティアの迎え入れ体制

先生のための5か条



第1条 学校支援ボランティアとのパートナーシップを築きましょう

学校支援ボランティアは、「部外者」と思われるのが、嫌です。少しずつでいいですから、一緒に活動をする「関係者」としてお客様扱いしないようにしてください。そして共に子どもを育てる責任をもった関係者として、対等な立場で、よりよいパートナーシップを築きましょう。

第2条 笑顔で明るいあいさつをしましょう

学校支援ボランティアにとって、職員室は気軽に出入りできるところではありません。そして先生たちの視線がとても冷たく感じるときがあります。そんな時、笑顔で明るいあいさつで声をかけられると心がほぐされるのです。学校支援ボランティアからもあいさつをします。先生方もあいさつをして心と心をつなぎましょう。

第3条 活動に対するアドバイスをしましょう

学校支援ボランティアは、活動をしながら自分自身も学び、向上したいと考えています。ですから活動後には、今後に生かせるようなアドバイスや感想を聞きたいと思っています。求めに応じて、活動の中でよかったことや気づいたこと、工夫して欲しいことなどを伝えましょう。

第4条 コミュニケーションの場を持ちましょう

学校支援ボランティアとのコミュニケーションの場をつくり、時には一緒にお茶を飲んだりしながら、たくさん話をしましょう。お互いの思いが伝わり、スムーズな活動につながります。また、信頼感が生まれることで、活動にも広がりや深まりができます。

第5条 子どもと一緒にボランティアから学ぶ体験をしてみましょう

学校支援ボランティアは、多くの知識や体験を持っています。時には先生たちも、子どもと一緒にボランティアから学ぶ体験をしてみましょう。きっと、何かを学ぶことができると思います。ボランティアも先生や子どもと一緒に学んでいます。

学校支援ボランティアとともに（先生方へのメッセージ No.4）

6 学校支援ボランティアの迎え入れ体制

学校内の受け入れ体制 10か条



第1条 研修をしよう

学校支援ボランティアについての理解を深めるために、進んで研修に参加したり、校内で研修を行ったりしましょう。

第2条 担当者を決めよう

学校支援ボランティアにとって、学校には来たものの誰に声をかけていいのかわからないというのでは、とても困ります。ボランティアと学校をコーディネートする担当者を決めて、対応するとよいでしょう。

第3条 学校が必要とするボランティアの情報を知らせましょう

学校が、どのような学校支援ボランティアを必要としているか、学校の情報を地域に発信し、必要としているボランティアを知ってもらいましょう。

第4条 学校行事に招待しよう

日頃から、地域住民や学校支援ボランティアを学校行事へ招待し、参加してもらいましょう。行事を通して子どもたちの実態や学校の様子を理解してもらう、絶好のチャンスです。学校への理解が深まり、先生や子どもたちとのコミュニケーションも生まれ、スムーズな活動につながります。

第5条 施設設備・教材を見てもらおう

学校には、どのような施設・設備や教材があるのかという情報は、学校支援ボランティアが活動内容を考えるときに、とても役立つ情報です。教材を見てもらう日を設定し、効果的に情報を提供する機会を作りましょう。

第6条 学校とボランティアとの情報を共有しよう

学校の経営計画はもちろんのこと、学年目標や学級目標、各学級担任や校務分掌など、学校が提供できる情報は、できるだけ提供しましょう。情報はキャッチボールです。ねらいを定めて情報を提供することで、地域からの情報も入ってきます。ボランティアと学校との情報を交流させ、たくさん共有しましょう。

第7条 ボランティア掲示板を置こう

学校支援ボランティアが校内外で活動していることが、子どもたちや先生たちにもわかるよう 「今日のボランティア」掲示板などを設置するとよいでしょう

第8条 ボランティアルームをつくろう

余裕教室や特別教室を利用して、「ボランティアルーム」を設置することにより、ボランティアが活動の準備や後片付けに利用できます。また、ボランティア同士の情報交換などにも便利です。

第9条 ボランティア用名札・リボンを用意しよう

学校支援ボランティア専用の名札やリボンを用意し、活動中はつけてもらうようにすると、先生たちや子どもたちも一般の来校者との区別ができます。また安全管理の面からもよいでしょう

第10条 保険の加入を確認しよう

学校支援ボランティアの保険の加入について、確認しましょう

学校支援ボランティアとともに（先生方へのメッセージ No.5）

7 学校支援ボランティアの迎え入れ体制



ボランティア活動が終わったら

ア 活動を振り返りましょう

次の活動へとつなげるために、ボランティアの方と活動内容の成果や課題、改善点などについて、話し合いましょう。また先生方の共通資料とするために、話し合いの記録を残しましょう。

イ ボランティアを学校の宝に

子どもたちのために進んで来てくれるボランティアの人たちをいつまでも声をかけ合える支援者として、学校の“人財”としましょう。そのために、ボランティアの方々をボランティアリストなどに登録させてもらえるようにお願いしましょう。

子どもたちの礼状や感想文集などを送付したり、学習発表会や公開授業などの学校行事に招待することは、ボランティアとの関係づくりにとても役立ちます。

学校業務を向上させ、スリム化を図るためには、ボランティアによる学校支援は欠かせません。

まずは、できるところからボランティアの力を借りてみては、どうでしょうか。

学校がボランティアを依頼しようとするとき、なかなかうまくいかないことがあります。その原因の一つに、学校は自分たちの仕事を地域ボランティアに押しつけるのではないかという誤解があります。

次に式を見てください。

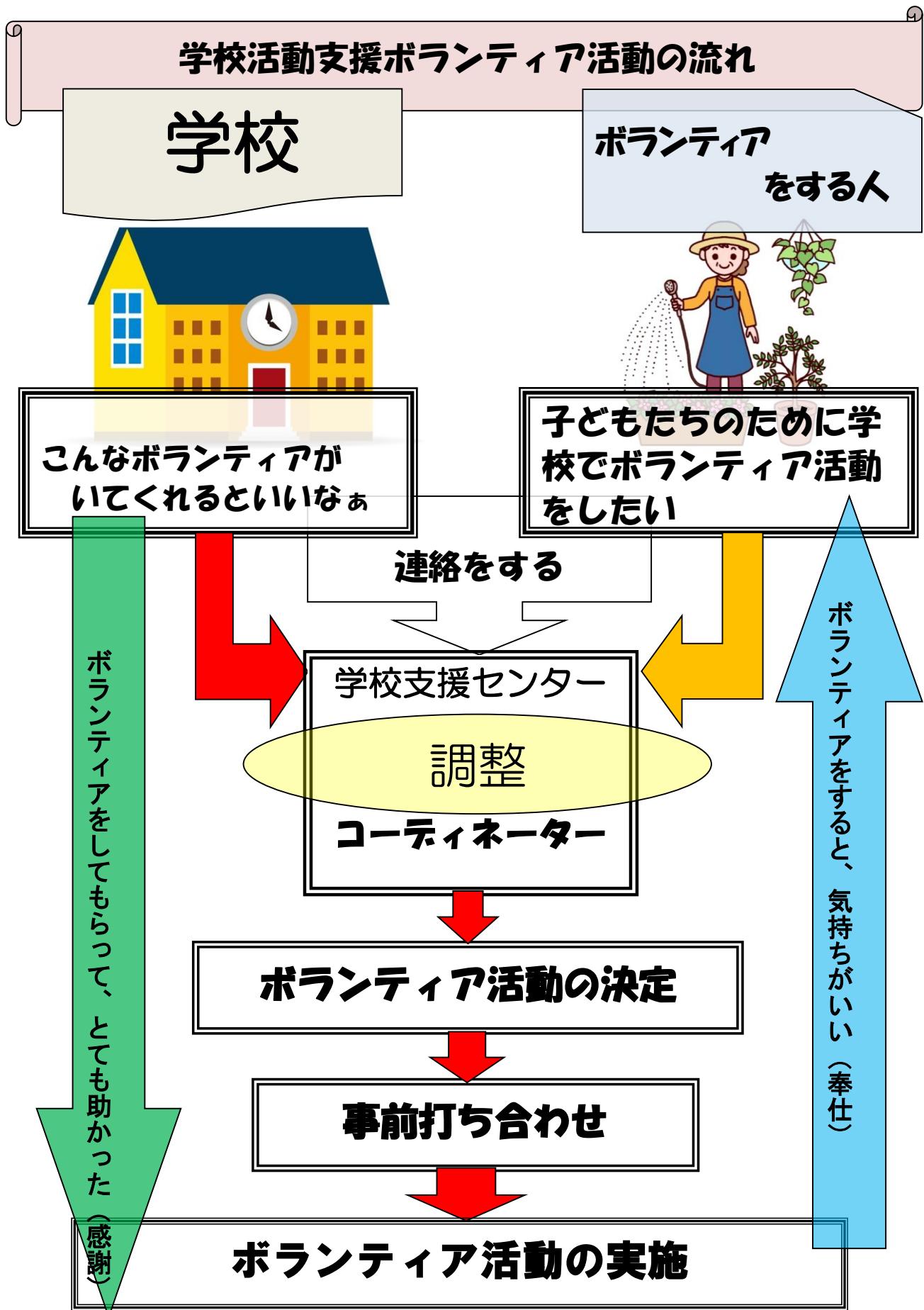
$$\text{ア) } (10 - 2) + 2 = 10 \quad \text{イ) } 10 + 2 = 12$$

まず、ア) の式は、現在の学校業務の量を「10」としたとき、教職員が「-2」の仕事の手を抜き、その分をカバーするために「+2」の仕事をボランティアに依頼するという考え方です。これはボランティア活動に対する地域の方々の誤解を現わしています。

そこで、イ) のように、現在の学校の業務にボランティアが「+2」の支援を行うことによって、学校は、「12」の業務をこなすことができるようになることを説明すれば、地域の方々は、ボランティア活動を理解してくれ、支援を申し出てくるようになります。

また、学校の業務は肥大化しつつあると言われます。そこで、学校支援ボランティアの協力を得れば、学校の肥大化を止め、スリム化を図るように工夫することで課題解決につながります。ドリルのマル付けや個別指導補助、校外パトロール、図書室業務補助などは学校のスリム化を図る典型的な活動例になります。

学校に外部の人が入ることに抵抗を感じる教職員は少なくありません。しかし、学校業務を向上させ、スリム化を図るためには、ボランティアによる学校支援は欠かせなくなります。まずは、できるところからボランティアの力を借りてみてはいかがでしょうか。



学校とボランティアをつなぐために

(コーディネーターへのメッセージNo.1)

1 学校支援ボランティアのコーディネートが求められています

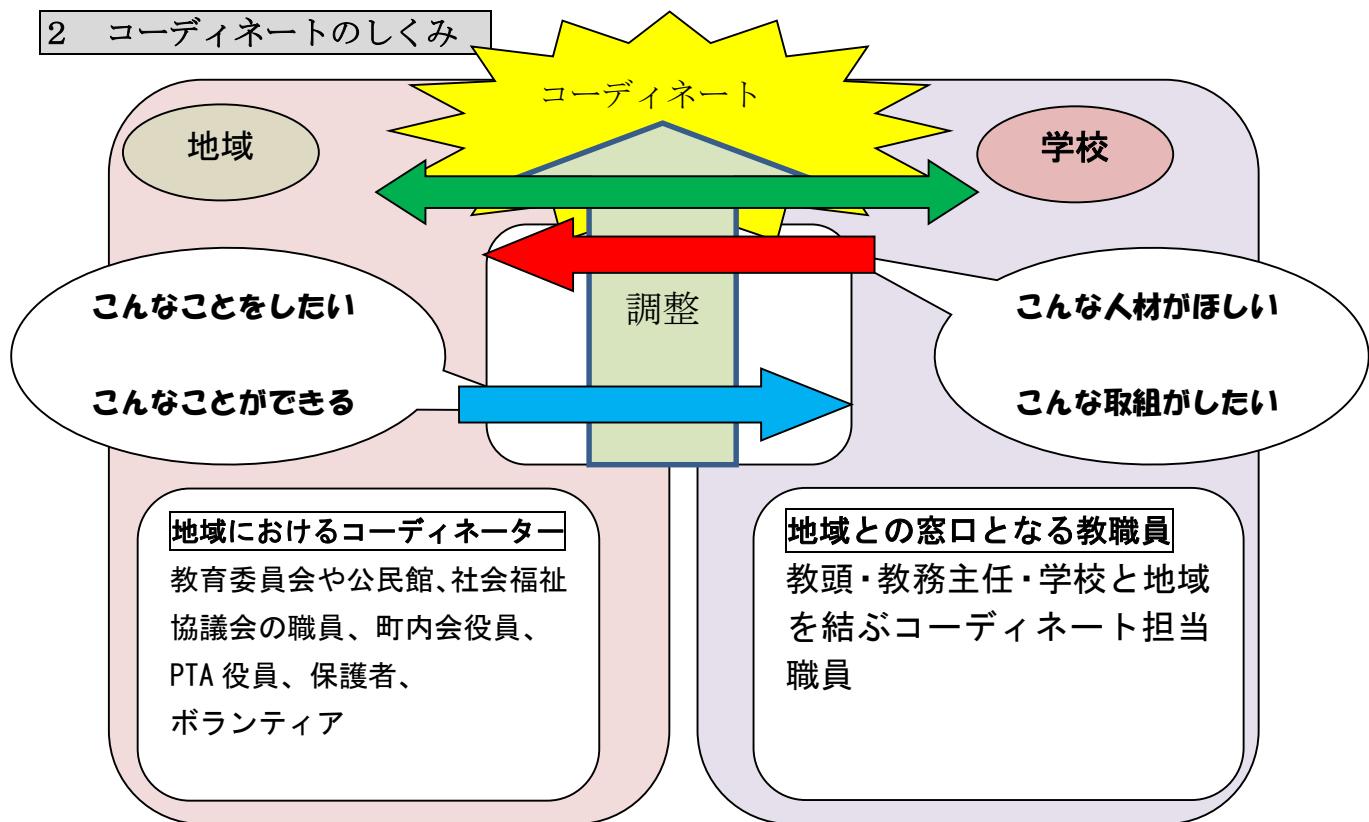
学校教育活動のねらいと学校支援ボランティアの活動に対する思いや考えをつなぐ役割をしてくれる人を「学校支援ボランティアコーディネーター」と呼びます。

コーディネーターは、地域との窓口となる教職員が担う場合と、地域住民が担う場合とがあります。学校と地域の双方にコーディネーターがいると、情報が広がり、それぞれの思いをより適切につなぐことができます。

コーディネーターは、ボランティアと学校をつなぎ、双方の相談にも応じます。

また「学校支援ボランティアだより」などの情報を使い、活動の輪を広げることもその役割の一つとして期待されます。

2 コーディネートのしくみ



学校では、地域との窓口となる教職員を明らかにし、様々な情報を地域に発信することが大切です。

地域では、教育委員会・公民館職員などが窓口となり、コーディネート機能を果たすことが求められています。

学校とボランティアをつなぐために

(コーディネーターへのメッセージNo.2)

3 学校支援ボランティアのメリット

未来を担う子どもたちを育てることです

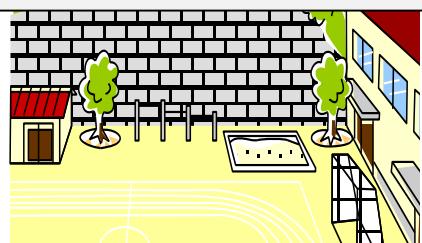
- ・子どもたちの学びを深めることができます。
- ・子どもたちの思いやりの心や感謝の心をはぐくみます。
- ・子どもたちに地域の一員としての自覚をうながします。

共通の願い

協働

学校

学校にとってのメリット



先生方の力強いサポート

- ボランティアの持つ専門性を生かすことにより、子どもの学習意欲が高まる
- 地域住民の学校理解が深まる
- 学校業務のスリム化につながる

地域

地域にとってのメリット



生きがいや地域づくり

- 地域住民の生きがいと自己実現につながる
- 社会参加活動の場が得られる
- 地域社会の活性化につながる

学校とボランティアをつなぐために

(コーディネーターへのメッセージNo.3)

学校支援ボランティアには、活動に対する思いや考えがあります。そして、学校には教育活動のねらいがあります。コーディネーターは、ボランティアと学校の間に立って両者を結びつけるだけでなく、両者の思いやねらいを受けとめ「協働」という対等な関係で、一緒に活動を作り上げていくための調整をします。

4 地域コーディネーターって何をするの？

受けとめる

「ボランティア活動をしたい」という地域住民の思いや、「ボランティアの応援がほしい」という学校のニーズを受けとめます。また、活動内容の相談や活動後の感想等についても受けとめ、必要に応じて励ましたり、アドバイスをしたりします。

- 学校のニーズ
 - ボランティアのニーズ
 - ボランティアの感想、相談、悩み、喜び
 - 先生の感想、相談、悩み、喜び
- など

知らせる

学校が必要としているボランティアの情報や、実際の活動のようすを地域や学校へ伝えます。

- ボランティアの募集（地域へ）
 - 活動のようすを先生や保護者に伝える（学校だより・P T A広報紙等）
 - 活動の情報を掲示板等を使って校内の先生や児童生徒へ周知する
- など

つなぐ

「ボランティア活動をしたい」と思っている地域の住民と「ボランティアの応援がほしい」という先生をつなぎ、調整します。

- 先生からニーズがあるとき、調整してボランティアを紹介
 - ボランティアから希望がある場合に、先生に伝えて活動を紹介
 - ボランティアの情報収集と整理
- など

育てる

ボランティア活動がよりよい活動となるよう、研修会等の学ぶ機会を提供します。

- 先生やボランティアの研修の企画と実施
 - ボランティアと先生の交流会の実施
 - この冊子「はじめよう 学校支援ボランティア」から、必要な内容をコピーし配布
 - 活動案の作成
- など

学校とボランティアをつなぐために

(コーディネーターへのメッセージ No.4)

5 地域コーディネーターの心得 5か条

第1条

ボランティアと先生、子どもたちが、同じ思いをわかちあえる活動となるよう、心がけましょう

ボランティア活動は、一方通行ではありません。一緒に活動することで、お互いに学ぶ双方向の活動です。思いをわかちあえる活動になるよう、心がけましょう

第2条

ボランティアと学校の両者が、対等に話し合えるよう工夫しましょう

ボランティアと学校が対等になってはじめて、協働が生まれます。「学校・子どもたちのために」から「学校・子どもたちとともに」となるよう、工夫しましょう。

第3条

次の活動につながるよう、活動後には必ず言葉かけをしましょう

良かったところをほめること、言葉かけをすることは、コーディネーターとしての大切な技術です。アドバイスとともに、忘れずに励まし、勇気づけましょう。

第4条

コーディネートを通じて見えてきた問題は、ボランティアの方にも学校にもきちんと伝えましょう

コーディネーターは、ボランティアと学校の両者の声を聞くことで、問題点や課題に気づくことがあります。よりよい活動にするため、問題点や課題はきちんと両者に伝え、一緒に解決策を考えましょう。

第5条

知り合いを増やしましょう

コーディネーターに大切なのは、何を知っているかよりも誰を知っているかです。いろいろな人と知り合いになり、良い関係をつくっていきましょう。



学校とボランティアをつなぐために

(コーディネーターへのメッセージ No,5)

6 学校支援ボランティアと協働する4つのアイディア

(1) 「ボランティア会議」などを定例化し、情報交換と打合せを行う。

ある小学校では、毎週第二火曜日の午後5時から「ボランティア会議」を開催しています。1時間程度の会議で、そこでは教職員とボランティアが意見交換を行い、その双方が情報を提供し合っています。学校とボランティアのそれぞれの思いを出し合い、問題解決を図っています。また、新しいボランティアが入る時には、打合せの時間としても活用されます。

(2) 活動部門ごとにボランティアの名称をつけ、役割を明確にしておく。

例えば、花壇整備担当をフラワー・ボランティア、図書室担当を図書・ボランティア、授業の補助を学習アドバイザーなどと名付けている学校が多く見られます。これは単なる名称だけの問題ではなく、ボランティアの役割を明確にするという意味があります。そうしないと、特定のボランティアにいろいろな仕事が集中し、本来の役割をこなしきれなくなってしまうからです。

(3) ボランティアを外部評価者に位置づける。

学校でも外部評価に取り組むところが増えてきています。しかし、学校評議員やPTA役員に外部評価をお願いしても、学校の様子を日頃から把握しておかないと、なかなか適切な評価を行うことができません。そこで、日常的な支援活動をとおして学校の教育活動や子どもの様子を把握している学校支援ボランティアの方々に外部評価をお願いすれば、適切な評価を行うことができます。

(4) 「学校支援ボランティアだより」などを発行し、活動の輪を広げる。

定期的に「学校支援ボランティアだより」などを発行し、その活動の理解を促し、新たな活動希望者を募る取組が見られます。そうすれば、保護者もボランティア活動を理解でき、ボランティア自身のやりがいも確かなものになります。これは学校支援ボランティアコーディネーターの役割の一つです。



学校とボランティアをつなぐために

(コーディネーターへのメッセージNo.6)

7 学校支援ボランティアをめぐる10の課題

①教職員の意識改革

従来の学校観では変化しつつある社会に対応できず、むしろ教職員の業務は肥大化する恐れがあります。あるいは学校教育の質的低下を招くかもしれません。

そこで、学校支援ボランティアの協力を得て、学校のスリム化を図り、時代の変化に対応できる学校教育を推進しようとする意識をもたなければなりません。

新しい方法と従来の方法を比べて、メリットが少しでも多ければ新しい方法を採り入れるような意識改革が大切です。

②ボランティアに対する謝礼・お礼

無償でボランティアを依頼するケースは多くあります。その際に大切なのは、学校が見せる謝意です。謝意は、児童生徒の作品や手紙で示しても、また、ボランティアが気持ちよく活動できる環境づくりに努めることでも構いません。予算のないことを学校支援ボランティア活用にブレーキにしてはなりません。

③ボランティア保険

ボランティアといえども対人賠償、対物賠償等の損害賠償にかかる責任を負うことがある旨をボランティアの方にも理解してもらいましょう。事前に、各種保険の加入について確認したり、加入を促す必要があります。特に、損害賠償保険への加入が大切です。そして、加入している保険の賠償額や補償条件など、その内容を十分吟味することを怠ってはなりません。また、保険に加入していれば安心できるというものではありません。

④ボランティアの守秘義務とルールづくり

ボランティアに守ってもらいたいルールについて、具体的にその理由を説明しておくことが大切です。ボランティアも学校教職員に準じた服務の取り扱いが適用され、守秘義務を理解してもらうためには地方公務員法の関係条文のコピーを配付しておくのも効果的です。

⑤打合せ時間の確保

ボランティア会議を定例で開催し、反省会と打合せを行うようにしましょう。そのことによって日程調整も打合せも効率よく進められることにつながります。また、ボランティアとの打合せには、経験者の協力を得ながら、そのノウハウなどを伝えるようにしましょう。

⑥学校支援組織の設置

学校とボランティアの関係は、教職員の異動やボランティアの個人的な都合によって希薄になる場合があります。そこで、地域レベルの学校支援組織を設置し、両者の関係を維持するよう努めましょう。

地域組織を設置すれば、学校とボランティアの関係が維持できるだけでなく、学校のニーズに合致したボランティアが見つかる可能性が高くなります。

⑦ボランティアバンク・リストの活用

ボランティアバンクやリストは、文字情報だけではボランティアの人物や能力が把握できないため、人材情報の提供だけでは活用されません。そこで、登録者の指導を披露できる機会を設けたり、コーディネーターを置いて、その活用を促すなどの工夫が必要です。

⑧ボランティアの資質・能力の向上

学校は、必要なタイプや役割を明確にした上で、最適なボランティアに直接依頼します。場合によっては、学校がボランティアの資質向上のための研修機会を与えることも必要です。また、学校はボランティアに過度の期待をしたり、ボランティアの資質・能力を把握しないまま依頼したりしてはなりません。

一方、学校支援ボランティアは自分のできることとできないことを自覚して活動することが大切です。

⑨学校支援ボランティア活動と危機管理の両立

「開かれた学校づくり」と危機管理を対極に置いてはなりません。その両者を両立させる学校経営の改善が大切です。危機管理の方法は学校環境に応じて異なります。

学校施設を完全に開放し、様々な人が来校できるようにして危機管理がなされる場合もあります。学校安全パトロールなどに学校支援ボランティアを生かして危機管理に努めることもできます。

⑩学校支援ボランティアとPTA活動

PTA活動と学校支援のためのボランティア活動とをはっきりと区別した方が本来のボランティア活動の趣旨（自発性の原則）が生かされ、会員以外のボランティアが活動しやすくなります。しかし、PTA活動に学校支援活動を取り入れることによって、PTA活動を活性化させることもできます。特に、PTA活動が目標を失って低迷化しているような状況では、ボランティア活動の導入は効果があると言えます。学校やPTAの実態に応じて学校支援ボランティア活動を位置づけることが大切です。

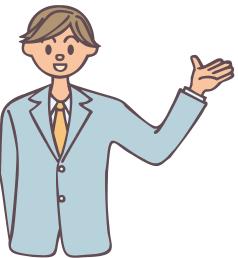
学校が求める支援内容

学校が支援を求めている内容について紹介します。支援内容をお考えいただく際の参考にしていただき、工夫とアイデアあふれるご支援をお願いします。



■教科では…

国語	読み聞かせ、読書、朗読（劇）、手話との出会い（点字・手話）、民話や方言について、百人一首、短歌・俳句、硬筆・毛筆、詩・エッセイなど
算数（数学）	数や図形のふしき、数式、そろばん、ゲームなどをとおして数学の楽しさを学ぶなど
生活（小学校1・2年）	季節の草花や虫の話、生き物の飼育指導、地域の伝承遊び、むかしの遊び、農園作業（野菜などの栽培指導）、地域の祭り、町たんけんの引率補助など
理科	樹木観察や野鳥、昆虫観察（昆虫の体のつくりや一生）、生き物の飼育、植物の発芽と成長、野菜などの栽培指導、季節の星座、天体観測、天気の変化（気象・天気図など）、光や磁石の性質、振り子の運動、電磁石の働き、電流の働き、電気の利用、太陽の動き、空気と水の性質、環境問題や自然保護について、人の体のつくりと動き、地層や岩石・化石、人と自然（自然保護活動）、てこの原理、生物と環境など
社会	絵地図づくり（校区引率補助など）、むかしの道具や生活について、文化財や年中行事、ゴミの分別やリサイクル、森林資源の働き、自然災害の防止、地域の伝統工業、農業や食糧事情について、水産業・工業について、情報産業、外国文化や生活習慣の話、海外生活体験談や移住・留学生の話、青年海外協力隊等の活動体験談・戦争体験や疎開体験談など
音楽	鍵盤ハーモニカやリコーダー指導、木管楽器や打楽器の指導、金管楽器や弦楽器の演奏、和太鼓やお囃子の演奏、合唱、民謡や長唄、邦楽（琴・三味線・尺八など）
図工（美術）	小刀・彫刻刀の使い方指導、版画指導、電動糸のこぎりの操作や針の打ち方、両刃のこぎりの使い方、水彩画や油絵の鑑賞や指導、コンピュータグラフィックスなど
体育	器械体操、陸上競技、水泳、球技、スキー、剣道、柔道、フオーグダンスなどの表現運動など

保健	ケガの防止や応急手当、第二次性徴（初経・精通）について、病気の予防（生活習慣病）、アルコールの害、喫煙の話、薬物乱用防止など
家庭	運針、ミシン操作の指導・調理実習補助・栄養指導など
技術家庭	子育て体験談、電気回路、コンピュータ操作・プログラム作成など
道徳	仕事や人生における体験談など
総合的な学習の時間	車椅子やアイマスク体験、パソコン指導、デジカメ指導、点字や手話、リサイクルについて、ゴミと環境、ボランティア体験、中学生チャレンジウィーク（職場体験）、外国の文化・海外生活体験談、しめ縄づくり、地域の歴史や文化、地域の伝承、行事、食べ物など
学校行事では	行事の写真撮影、ビデオ撮影、賞状等への児童・生徒の氏名書き、作物栽培（学校田での米づくりやさつまいもづくり）、講話、楽器演奏、各種スポーツ・レクリエーション、修学旅行プランアドバイスなど
クラブ活動では	将棋、囲碁、パソコン、手芸、そば打ち、陶芸、ギター、琴、和太鼓、エアロビクスダンス、ゲートボール、グランドゴルフ、そろばん、押し花、まんじゅうづくり、パッチワーク、アレンジメントフラワー、一輪車、生け花など
部活動では	野球、ハンド、バスケット、バレー、ソフトテニス、卓球、陸上、水泳、柔道、剣道、合唱、吹奏楽、華道、茶道、書道など
その他の具体的支援例	 身近な川の清掃活動、森の中での間伐体験、川の水質調査、生物調査やビオトープ、省エネやリサイクル、酸性雨や地球温暖化について、身近な河川について、人生経験談や職業観について、趣味や特技を活かした生き方のミニ講話、交通安全指導、校外学習などの引率補助、校舎の修理、窓ガラスの清掃、遊具のペンキ塗り、飼育小屋などの整備、草刈り、樹木の剪定、図書室の蔵書整理、理科室の備品整理、学校のホームページの作成など

その他の

(1) 法的な位置づけ

(学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力) 教育基本法第13条

学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるとする。

この法律からみれば、「子どもたちの教育は学校だけではなく、家庭・地域住民等といった多様な教育力によって担われることを示している。学校支援ボランティア活動は、それらの連携協力を実践する有効で具体的な教育活動」のひとつです。

(2) 学校支援ボランティアコーディネーターの配置

○教員がなる場合

学校の規模に応じて、管理職や生涯学習係、社会教育主事有資格者などがその役割を担う場合がある。児童生徒の実態や守秘義務、人権への配慮など、学校のルールを細かく伝えることができる。

○ボランティアがなる場合

すでに活動経験のあるボランティアは、地域やボランティアのネットワークをもち信頼できるコーディネーターとして活躍することができる。また、学校の実態や要望も理解しているので、両者にアドバイスができる。

○PTA役員や保護者がなる場合

PTAの活動として学校支援ボランティアに取り組むことは、学校とのコミュニケーションも円滑に展開できるものと考えられ、コーディネーターとして効果的な活動ができる。PTA活動の一環として学校支援ボランティア活動に取り組んでいる学校も多い。

○組織で担う場合

教育委員会や公民館、自治会の役員、NPOなどによって構成された地域ぐるみの組織によるコーディネーションの形をとる場合もある。(学校支援地域本部事業など) また、定期的に公民館等が主催して、学校とボランティアの連絡調整会議を開催している地域もある。

(3) 「コーディネーター」から「コーディネーターズ」へ

学校支援ボランティアのコーディネートを複数の人たちが協力し、グループで行うとより効果的です。上記の人たちが、それぞれの特性を生かしてコーディネートすると、学校・ボランティア・地域等のそれぞれの立場での調整ができる。具体的には、学校内外にコーディネーターがいることが理想です。

【参考文献】

滋賀県教育委員会「さあ、はじめよう！学校支援ボランティア」

橿原市教育委員会「学校支援のためのハンドブック」学校支援ボランティア

栃木県教育委員会「さあ、はじめよう、学校支援ボランティア！！」

(配布資料)

学校支援センター（支援隊）の充実を目指して

1 地域連携の必要性

子どもへのメリット

- ① 地域の一員としての自覚が生まれ、地域への愛着が高まり、地域の人たちとの関わりとつながりが分かります。地域の絆を理解します。また生きる力が培われます。
- ② 地域の専門的な方に教えてもらうことで、技能や考え方などが広がり、学びに対して興味関心が高まり、地域への愛着の念が湧きます。
- ③ 地域の目が多くなり、安全安心な環境が生まれます。

学校へのメリット

- ① 地域が支援することで、学校活動に余裕ができ、より多くの時間が生まれ、教員の目が生徒に向き、きめ細やかな指導ができ、生徒とたくさん向き合えます。
- ② 学校の環境が整えられ、学習活動の環境がより高まり、学びの姿勢が高まります。
- ③ 学校への理解が多くなり、地域住民への理解が深まります。

ボランティアや地域にとってのメリット

- ① 生徒や教員とのつながりが生まれ、地域住民として学校理解と愛校心が生まれます。
- ② 今まで学んできた学習を生かし、児童に教えることで、学んできた喜びと更なる向学心が生まれ、生き甲斐としての意欲が向上します。
- ③ 人のために尽くすボランティア精神が喜びとなり、豊かな心と健全な身体となります。

2 地域の理解

① 地域の力は偉大です

学校の先生は、教科指導や学級指導、生徒指導などいくつもの指導を抱え、忙しさが増えていきます。子どもと向き合う時間が減少しています。

そこで、先生に子どもと向き合う時間を与えるべきなのです。昔のように、地域の目や地域の指導を復活させ、「地域の子どもは地域で育てる」ことを基本に、今後人口減の世の中で、地域の子どもに目を向けるべきなのです。

② 教えることが喜びにかわる

人に教えることを続けると、相手に伝わります。伝わった相手は、学ぶことに喜びを抱きます。更に教えた人は、もっと学びたくなります。また心が豊かになります。

③ 子どもが変わります

地域の皆さんがあなたを教えた子どもは変わります。地域で育てた子どもは、地域に愛着を持ちます。地域に愛着を持った子どもは、地域の絆が深まり、地域の宝物となります。宝物は皆さんのが守り、育てる物なのです。だからこそ、皆さんの力が必要なのです。

『下仁田小学校・学校支援隊』の募集について

【 4・S・V 】に登録して、ボランティアをしてみませんか！！

(下仁田小学校・スクール・サポート・ボランティア)

現在、小学校では、様々な活動において、ご支援をいただいておりますが、さらに充実していきたいと考え、学校支援隊【 4・S・V 】を組織していきたいと思います。

この活動は、ボランティアを基本とし、「できるときに」「できる人が」「できることから」を合い言葉に、協力できる人を募集しています。

申込用紙に必要事項を記入し、学校又は、公民館、教育委員会へ届けていただければと思います。（郵送、Fax でも結構です。ご連絡頂ければ、受け取りにも伺います。〈町内区域の方〉）

- 1 目的 子どもたちにとって、よりよい環境づくりを考え、行動し、支援していく。
- 2 方針 ① ボランティアを基本とし、「できるときに」「できる人が」「できること」を支援する。
② 学校と地域が連携して、小学校全児童が健やかに成長することへの支援をする。
- 3 活動内容

- ①読み聞かせ班……本の読み聞かせ等をする。
 - ・朝、20分休み、昼休み等
- ②環境班……子どもたちにとってより良い学校生活になるように、環境整備のお手伝いをしていく。
 - ・芝生や花壇の除草作業
- ③安全班……子どもたちの安全確保のために「安全パトロール」などの活動をする。
 - ・自動車や自転車による下校時の通学路パトロール
 - ・買い物や散歩時を利用した地区内のパトロール
 - ・登下校時に家の門付近にて行う安全確認
 - ・スクールバス乗降時の安全確認・指導
- ④学習班……授業(学習)の支援、協力等
 - ・校外学習の引率の補助
 - ・放課後の学習指導の支援
 - ・授業(学習)の支援、家庭科の調理実習やミシン指導の補助、福祉活動(点字や手話等)の支援等々
- ⑤その他 (自分の趣味や特技などを生かし、児童と一緒にしたいこと)

4 組 織

下仁田小学校に、「下仁田小学校学校支援隊事務局」を置きます。

名称を下仁田小学校スクール・サポート・ボランティア【4・S・V】とします。

5 連絡先 ※ご不明な点がありましたら、下記へお問い合わせください。

下仁田小学校学校支援隊事務局【4・S・V】

下仁田小学校 電話 0274-82-2077

(下仁田小学校教頭又は、地域連携推進担当 教育委員会 82-2115 ○○まで)

下仁田小学校学校支援隊 登録用紙

4・S・V (下仁田小学校・スクール・サポート・ボランティア)

ふりがな お名前	〒 ご住所
電話番号 ()	所属団体(ございましたら)
連絡児童(お近くにいれば) 年 組 児童名	

1. ボランティアとして活動して頂ける時間 (曜日・時刻・活動時間・その他)

○をお願いします。 (複数可)

	月	火	水	木	金	土・日
午 前						
午 後						
活動時間 (1~4)						

2. ボランティアをお願いする際、ご連絡に制限がある場合は記入してください。

お電話は () (例) 夕方6時以降が良い

3. ボランティアとしてご支援いただけるものに○をお願いします。 (複数可)

①読み聞かせ班……本の読み聞かせ等をする。

() ・朝、20分休み、昼休み等

②環境班……子どもたちにとってより良い学校生活になるように、環境整備のお手伝いをしていく。

() ・芝生や花壇の除草作業

③安全班……子どもたちの安全確保のために「安全パトロール」などの活動をする。

() ・自動車や自転車による下校時の通学路パトロール

() ・買い物や散歩時を利用した地区内のパトロール

() ・登下校時に家の門付近にて行う安全確認

() ・スクールバス乗降時の安全確認・指導

④学習班……授業(学習)の支援、協力等

() ・校外学習の引率補助、放課後の学習指導の支援、授業(学習)の支援等

⑤ その他 (子どもたちと一緒にしたいこと、指導できること等)

() ご記入ください。

4. ボランティア保険

他団体でボランティア保険に加入されていますか?

加入している

加入していない

5. その他、何かありましたらご記入ください。

平成 年 月 日

保護者様

下仁田町立下仁田中学校
校長

下仁田中学校 学校支援センターボランティア募集のお願い

青葉の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、下仁田中学校では学校支援センターを設置し、学校のさまざまな教育活動に対して支援をしていただいております。こうした活動は、学校の教育活動を充実させ、子どもたちの学習や生活に多くの成果を上げています。

そこで、今年度も学校支援ボランティアを募集させていただきます。ぜひ、皆様がお持ちの知識、技能、経験等を子どもたちのために生かしていただきたいと思います。下仁田中学校の教育を一層充実させるため、多くの皆様のご協力をお願い申し上げます。

ボランティアの内容について

たとえば

- ・授業における指導の補助（家庭科の調理実習や被服実習での補助、総合的な学習の時間に地域について学習する際の講師等）
- ・図書の読み聞かせ

などがあげられます、もちろんこれ以外でもけっこうです。また、ボランティアには資格はいりません。ご協力いただけることがありましたら、ぜひお力を貸しください。

申し込み方法

下記申込書にご記入の上、〇月〇日までに提出してください。お申し込みくださった方は、下仁田中学校学校支援センターボランティアのメンバーとして登録されます。また、群馬県教育委員会が進めるボランティア活動保険に加入します。登録していただいた方には、活動時期等を後日ご連絡します。なお、お知り合いの方でご協力いただけそうな方がいらっしゃいましたら学校までお知らせください。

不明な点がありましたら、下仁田中学校（82-2049 担当：〇〇）までご連絡ください。

なお、お申し込みいただいたにもかかわらず、実施できない場合もありますことを申し添えます。

学校支援センターボランティア申込書

ボランティア氏名	生徒氏名	クラス
		年 組

支援していただけることを具体的にお書きください

平成 年 月 日

下仁田町の皆様へ

下仁田町立下仁田中学校
校長

下仁田中学校 学校支援センターボランティア募集のお願い

青葉の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、下仁田中学校では学校支援センターを設置し、学校のさまざまな教育活動に対して支援をしていただいております。こうした活動は、学校の教育活動を充実させ、子どもたちの学習や生活に多くの成果を上げています。

そこで、今年度も学校支援ボランティアを募集させていただきます。ぜひ、皆様がお持ちの知識、技能、経験等を子どもたちのために生かしていただきたいと思います。下仁田中学校の教育を一層充実させるため、多くの皆様のご協力をお願い申し上げます。

ボランティアの内容について

たとえば

- ・授業における指導の補助（家庭科の調理実習や被服実習での補助、総合的な学習の時間に地域について学習する際の講師等）
- ・図書の読み聞かせ

などがあげられます、もちろんこれ以外でもけっこうです。また、ボランティアには資格はいりません。ご協力いただけることがありましたら、ぜひお力を貸しください。

申し込み方法

下記申込書にご記入の上、〇月中旬までに提出してください。お申し込みくださった方は、下仁田中学校学校支援センターボランティアのメンバーとして登録されます。また、群馬県教育委員会が進めるボランティア活動保険に加入します。登録していただいた方には、活動時期等を後日ご連絡します。なお、お知り合いの方でご協力いただけそうな方がいらっしゃいましたら学校までお知らせください。

不明な点がありましたら、下仁田中学校（82-2049 担当：〇〇）までご連絡ください。

なお、お申し込みいただいたにもかかわらず、実施できない場合もありますことを申し添えます。

学校支援センターボランティア申込書

ボランティア氏名	住 所	電話番号

支援していただけることを具体的にお書きください